

レッツ工事台帳V.8 仕訳伝票転記 訂正表 (PCA)

「レッツ工事台帳」をご利用くださいます、誠にありがとうございます。

本マニュアルにリビジョンアップにより一部訂正・追加がございました。次のとおり、訂正・追加を致します。

※2014年3月5日時点の全ての本マニュアル追加・変更事項を記載致しております。「◀」が今回変更点です。

ページ	場所	誤	正
全般		PCA会計7/8PCA給与7/8	PCA会計9/X PCA給与 ▶
全般		PCA会計建設業会計2000Plus/V.6 PCA給与7/8	PCA会計建設業会計V.7 PCA給与 ▶
9	脚注	(記載追加)	リビジョンアップにより、PCA建設業会計へ「出庫」仕入先が転記可能になりました。 ※設定方法につきましては、本誌P1をご参照下さい。
11	税区分変換テーブル	(記載追加)	リビジョンアップにより「非売仕」「共売仕」を追加しました。 「非売仕」非課税売上分課税仕入 「共売仕」共通売上分課税仕入 ※平成23年度税制改正(95%ルールの見直し)に伴い、税区分を分ける場合に使用します ※この税区分はレッツ工事台帳の中では「課税」と同じに扱います ※設定方法は、本誌P6をご参照下さい
		(記載追加)	リビジョンアップにより、消費税率毎に税区分変換テーブルが設定できるようになりました。 各画面には予め税区分が設定済です。 設定済の税区分は変更可能です。
17	脚注	(記載追加)	リビジョンアップにより、PCA建設業会計に読込可能な工事データの出力が可能になりました。 ※詳しい内容につきましては、本誌P2~をご参照下さい。
18	完成振替仕訳とは	レッツ工事台帳は、工事進行基準・部分完成基準での完成振替には対応しておりません。	リビジョンアップにより工事進行基準・部分完成基準に対応可能になりました。 (Ver8.4R01以降) ※完成振替対象工事選択画面にて、未成工事も選択可能になりました。
25	[今回指定]	(記載追加)	<input type="checkbox"/> H22.4労基法対応版形式で出力チェックがONの場合、平成22年4月改正後の形式で出力されます。OFFの場合は改正前形式で出力されます。

※下記につきましては、リビジョンアップで追加になりました機能について解説しております。

その他の操作方法につきましては、「仕訳伝票転記マニュアル」をご参照下さい。

●「出庫」仕入先出力設定●

【概要】

PCA建設業会計との仕訳連動において、「出庫」仕入先が転記できるようになりました。

【操作】

- ①メインメニューから「仕訳伝票転記」→「財務会計へ転記」を選びます。
- ②「設定」を開きます。
- ③「変換コード初期設定」→「出庫仕入先も転記する」のチェックをONにします。
- ④「出庫詳細設定」をクリックし、変換コード等の設定を行います。

入力項目	桁数
科目コード	4
補助コード	4
工種コード	2
取引先コード	5
税区分	2

※工事コード__工事出力が
ONの場合に入力可能

- 工事出力・・・ONの場合、貸方に「入庫」工事を出力します。
- 取引先出力・・・貸方に「出庫」仕入先の取引先コードを出力します。

- ⑤承認ボタンをクリックして登録します。
次回転記時より「出庫」仕入先が転記されます。

《注意》

- ※一緒に書出される工事は「入庫」工事となります。
仕入伝票(現場日報 仕入行)を転記します。
支払伝票(現場日報 支払行)は転記されません。
- ※詳しい内容につきましては、画面上の注意ボタンを参照して下さい。

 工事出力), '工種コード' (明細工種 /) , '取引先コード' (/ 「出庫」仕入先 取引先出力), and '税区分' (明細税区分 /) . At the bottom are buttons '戻る[F1]' (Back) and '承認[F9]' (Confirm). A '挿入' (Insert) button is visible at the bottom right of the window."/>

●工事データ書出●

【概要】

PCA建設業会計V6(バージョン:1.0 バージョン:4.23以降)、V7との連動において、「工事受注」データの書出ができるようになりました。

※PCA建設業会計2000Plusには工事データ読込機能がないため、読込できません。

【操作】

- ①メインメニューから「仕訳伝票転記」→「財務会計へ転記」を選びます。
- ②メニューバー「機能」→「工事受注書出」を選びます。
- ③「工事受注書出」画面が表示されます。各項目を指定します。
バージョン：PCA建設業会計V.6・V.7より選択します。
ファイル名：ファイル名・保存場所を指定します。(必須)
工事：出力する工事の範囲を指定します。
請負金額：請負金額の出力内容を税抜・税込より選択します。
担当者コード：出力する担当者コードを配置技術者・工事担当・営業担当より選択します。
- ④「実行」ボタンをクリックすると確認メッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。
[OK]をクリックすると書出処理が開始されます。
- ⑤正常に終了すると、再度確認メッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。

PCA建設業会計V6 工事マスター

No	受入項目	桁数	型	データの出力内容
1	工事コード	8	文字	「工事コード」
2	工事名称	40	文字	「工事名称」
3	略称	20	文字	「工事略称」
4	カナ	5	文字	空白
5	施工都道府県	8	文字	「工事経歴書」→「都道府県」
6	施工市区町村	14	文字	「工事経歴書」→「市区町村」
7	郵便番号	10	数字	空白
8	住所1	40	文字	「工事場所」
9	住所2	40	文字	空白
10	電話番号	19	数字	空白
11	施工主名	40	文字	「詳細」→「発注者」
12	工事予定開始日	8	数字	「予定着工日」(西暦)
13	工事予定終了日	8	数字	「予定竣工日」(西暦)
14	完成日	8	数字	「進捗入力日」(西暦)※未成工事の場合は空白
15	請負金額	12	数字	「請負金額(1行目)」 ※出力条件「税抜請負金額・税込請負金額」より選択
16	工事区分	1	数字	「工事経歴書」→「公共・民間」 「公共」の時は「0」「民間」の時は「1」
17	請負区分	1	数字	「受注区分」が「元請」の時は「0」、「下請」の時は「1」
18	JV区分	1	数字	「工事経歴書」→「JV」ONの時は「1」、OFFの時は「0」
19	請負先コード	5	文字	「得意先コード」※左から5桁
20	請負先名	40	文字	得意先コードに一致する得意先マスターの「得意先名称1」
21	担当部門コード	6	文字	担当部門コードの変換コード ※①
22	担当者コード	5	文字	出力条件にて「工事経歴書」→「配置技術者」・「工事担当」・「営業担当」より選択
23	担当者区分	1	数字	「工事経歴書」→「配置技術者の別」 「主任技術者」の時は「0」、「監理技術者」の時は「1」
24	追加1-日付	8	数字	「請負金額」→「契約日付(2行目)」(西暦)
25	追加1-摘要	20	文字	空白
26	追加1-請負金額	12	数字	「請負金額」→「契約金額(2行目)」
27	追加2-日付	8	数字	「請負金額」→「契約日付(3行目)」(西暦)
28	追加2-摘要	20	文字	空白
29	追加2-請負金額	12	数字	「請負金額」→「契約金額(3行目)」
30	追加3-日付	8	数字	「請負金額」→「契約日付(4行目)」(西暦)
31	追加3-摘要	20	文字	空白
32	追加3-請負金額	12	数字	「請負金額」→「契約金額(4行目)」
33	追加4-日付	8	数字	「請負金額」→「契約日付(5行目)」(西暦)
34	追加4-摘要	20	文字	空白
35	追加4-請負金額	12	数字	「請負金額」→「契約金額(5行目)」

※① 設定方法につきましては、転記マニュアルP6を参照下さい。

PCA建設業会計V7 工事マスター

No	受入項目	桁数	型	データの出力内容
1	工事コード	8	文字	「工事コード」
2	工事名称	40	文字	「工事名称」
3	略称	20	文字	「工事略称」
4	カナ	5	文字	空白
5	施工都道府県	8	文字	「工事経歴書」→「都道府県」
6	施工市区町村	14	文字	「工事経歴書」→「市区町村」
7	郵便番号	10	数字	空白
8	住所1	40	文字	「工事場所」
9	住所2	40	文字	空白
10	電話番号	19	数字	空白
11	施工主名	40	文字	「詳細」→「発注者」
12	工事予定開始日	8	数字	「予定着工日」(西暦)
13	工事予定終了日	8	数字	「予定竣工日」(西暦)
14	完成日	8	数字	「進捗入力日」(西暦) ※未成工事の場合は空白
15	請負金額	12	数字	「請負金額(1行目)」 ※出力条件「税抜請負金額・税込請負金額」より選択
16	収益認識基準	1	数字	空白
17	工事区分	1	数字	「工事経歴書」→「公共・民間」 「公共」の時は「0」「民間」の時は「1」
18	請負区分	1	数字	「受注区分」が「元請」の時は「0」、「下請」の時は「1」
19	JV区分	1	数字	「工事経歴書」→「JV」ONの時は「1」、OFFの時は「0」
20	請負先コード	5	文字	「得意先コード」※左から5桁
21	請負先名	40	文字	得意先コードに一致する得意先マスターの「得意先名称1」
22	担当部門コード	6	文字	担当部門コードの変換コード ※①
23	担当者コード	5	文字	出力条件にて「工事経歴書」→「配置技術者」・「工事担当」・「営業担当」より選択
24	担当者区分	1	数字	「工事経歴書」→「配置技術者の別」 「主任技術者」の時は「0」、「監理技術者」の時は「1」
25	追加1-日付	8	数字	「請負金額」→「契約日付(2行目)」(西暦)
26	追加1-摘要	20	文字	空白
27	追加1-請負金額	12	数字	「請負金額」→「契約金額(2行目)」
28	追加2-日付	8	数字	「請負金額」→「契約日付(3行目)」(西暦)
29	追加2-摘要	20	文字	空白
30	追加2-請負金額	12	数字	「請負金額」→「契約金額(3行目)」
31	追加3-日付	8	数字	「請負金額」→「契約日付(4行目)」(西暦)
32	追加3-摘要	20	文字	空白
33	追加3-請負金額	12	数字	「請負金額」→「契約金額(4行目)」
34	追加4-日付	8	数字	「請負金額」→「契約日付(5行目)」(西暦)
35	追加4-摘要	20	文字	空白
36	追加4-請負金額	12	数字	「請負金額」→「契約金額(5行目)」

※① 設定方法につきましては、転記マニュアルP6を参照下さい。

【注意事項】

1. 下記の内容は、PCA側で読込不可のため、データ出力時にエラーが出ます。
 - * 「,」 「¥」 「”」 「'」 の文字がデータ内に存在する場合
 - * 工事受注_追加金額(6行目)が存在する場合
2. 工事コードが「00000000」はPCA側で読込不可のため、レッツからは出力しません。
3. 請負金額の出力方法は、PCA側の運用に合わせて選択して下さい。

【PCAでの選択】

「外税自動計算」
「内税自動計算」
「税計算なし」

【レッツでの選択】

→ 「税抜金額で出力」
→ 「税込金額で出力」
→ 運用に合わせて選択

※詳しくは、画面上の注意・出力内容ボタンを参照して下さい。

※出力時にエラーが出た場合、エラーリストが表示されます。次にエラーがあっても出力する・出力しないの選択画面が表示されます。

「はい」を選択・・・エラーも含めたデータが出力されます。
「いいえ」を選択・・・書出処理を中止します。

【PCA建設業会計での読込方法】

[工事情報処理]→[工事マスター受入]より読込を行います。

受入ファイル名：レッツから出力したファイルを指定します。
データ形式：CSVを選択します。

※詳しい操作方法につきましては、PCA建設業会計の操作マニュアルをご参照下さい。

●完成振替●

【概要】

H21年4月より工事進行基準が義務化されることに伴い、部分完成基準・工事進行基準においても、完成振替処理が可能になりました。

【操作】

- ①メインメニューから「仕訳伝票転記」→「財務会計へ転記」
→「完成振替」を選びます。
- ②進捗区分[未成]を選択後、検索ボタンをクリックして下さい。
- ③未成工事が表示されるので、振替対象の工事を選択します。

【参考】

[全て解除]ボタンで[選]のチェックを一括で外すことが可能です。もう1度ボタンをクリックすると表示されている工事全ての[選]にチェックが入ります。

- ④[実行]ボタンをクリックして完成振替処理を完了させます。

【注意】

1. 完成日(進捗日)が必須入力項目になります。空欄の場合、完成振替できません。
2. 未成工事を完成振替した場合、完成振替済のチェックはONになりません。
3. 出力結果に変更はありません。

進捗区分	工事名	進捗	受注日	完成日(進捗日)	得意先名	請負金額(税込)
未成	土留付給付工事	完成	20/02/01	20/05/10	岸上住工	31,548,000
未成	コンクリートポンプ機付工事	完成	20/02/29	20/02/01	住友建設	155,000
未成	貸与工事	完成	20/02/10	20/02/02	近藤不動産株式会社	2,150,000
未成	メゾンキ・ら・ら 電気工事	完成	20/02/21	20/05/02	近藤不動産株式会社	27,453,250

●税区分変換テーブル●

【概要】

消費税法改正に伴い、下記の内容を変更しました。

【注意】

設定内容は会計ソフトによって異なります。

【操作】

- ①メインメニューから「仕訳伝票転記」→「財務会計へ転記」→「設定」をクリックします。
- ②設定画面が表示されますので、「税区分変換テーブル」をクリックします。
- ③「非売仕」「共売仕」に初期値が設定されています。会計ソフト側の内容を確認して、必要な場合は修正します。

税区分 設定

消費税率： 5 %

伝票税区分	通常転記				完成振替			
	売上科目		仕入科目		売上科目		仕入科目	
課税	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
非売仕			03	03			03	03
共売仕			03	03			03	03
非課税	A0	A0	F0	F0	A0	A0	F0	F0
対象外	00	00	00	00	B3	B3	00	00
消費税	B3	B3	03	03	B3	B3	03	03
共通	得意先科目		仕入先科目					
	00		00					

初期値に戻す

戻る[F1] 承認[F9]

挿入

●消費税法改正に伴う変更点●

【概要】

消費税法改正に伴い、下記の内容を変更しました。

■税区分変換テーブル

設定画面の税区分変換テーブルが消費税率毎に設定できるようになりました。

消費税率の変更が適用された際に、設定の確認をお願いします。

【注意】

平成25年10月28日現在、新消費税対応バージョンが未発売の会計ソフトの場合は、税区分は空欄になっております。

設定

PC1会計Ⅰ 設定

基本設定

消費税率毎の税区分

5 %の税区分	設定
8 %の税区分	設定
10 %の税区分	設定
	設定

完成振替後の税区分

通常税区分を使用
 完成振替税区分を使用

戻る[F1] 承認[F9]

完成振替後の完成変換コード（完成科目）に付く税区分です。通常は「完成振替税区分」を選択してください。完成振替対象科目もこの設定に従い。挿入

●PCA給与9へ転記●

【概要】

PCA給与_タイムレコーダー形式でのレッツ_出面データ読み込みが可能になりました。
タイムレコーダー形式の場合、従業員コードが文字の場合でも受入可能になります。

【操作】

- ①メニューから「仕訳伝票転記」→「給与計算へ転記」を選びます。
- ②条件画面が表示されますので、下記のように条件を指定します。

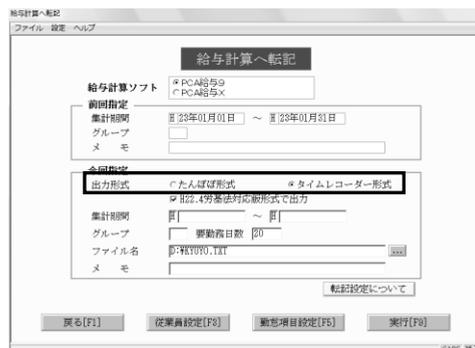
給与計算ソフト：PCA給与9を選択します。

出力形式：タイムレコーダー形式
(次回変更時まで保存します)

集計期間：(必須)書出す出面書の範囲指定を行います。

要勤務日数：給与計算に必要な「要勤務日数」を入力します。
(次回変更時まで保存します)

ファイル名：PCA給与に読み込みをするファイルの保存場所・



- ③[実行]ボタンをクリックして書出処理を完了させます。

【PCA給与9での読み込み方法】

[台帳入力・随時処理]→[分散データの受入]より読み込みを行います。

- ①メニューバー_ファイル→ファイルの指定をクリックします。
- ②工事台帳で指定したファイル名を設定し、[OK]ボタンをクリックします。
- ③条件画面を下記のように指定します。

対象：給与勤怠データのみ(タイムレコーダ)を選択します。

月度：給与計算に読み込みをする月を選択します。

- ④[受入開始]ボタンをクリックします。
- ⑤読み込みが完了すると、「受入が成功しました。」とメッセージが表示されます。

※詳しい操作方法につきましては、PCA給与のマニュアルをご参照下さい。

「タイムレコーダー形式」での出力項目

No	受入項目	桁数	型	データの出力内容
1	社員コード	10	文字	「従業員コード」
2	要勤務日数	5	数字	条件指定画面より
3	出勤日数	5	数字	勤怠項目設定による。未設定の場合、「0」を出力
4	出勤時間	6	数字	〃
5	事故欠勤日数	5	数字	〃
6	病欠欠勤日数	5	数字	〃
7	代休特休日数	5	数字	〃
8	休日出勤日数	5	数字	〃
9	有休消化日数	7	数字	〃
10	遅刻早退回数	5	数字	〃
11	遅刻早退時間	6	数字	〃
12	残業平日普通	6	数字	〃
13	残業平日深夜	6	数字	〃
14	残業休日普通	6	数字	〃
15	残業休日深夜	6	数字	〃
16	残業法定普通	6	数字	〃
17	残業法定深夜	6	数字	〃
18~47	回数	9	数字	「0」を固定出力

● PCA会計Xへ転記●

【概要】

PCA会計Xに正式対応しました。

書出方法につきましては、「仕訳伝票転記マニュアルforPCA」のP.15~をご参照ください。

【PCA会計Xでの読み方法】

[随時]→[汎用データ受入]より読みを行います。

ファイルパス(P)： レッツから出力したファイルを指定します。

データ形式： 1.カンマ区切り(CSV形式)

汎用データに項目名が存在する： チェックをONにして下さい。

※詳しい操作方法につきましては、PCA会計Xの操作マニュアルをご参照下さい。



データ出力内容

■通常転記(明細転記)

No	項目名	型	桁	売上	入金	仕入	支払
1	伝票日付	数字	8	伝票日付を西暦で出力 出力例)20110331 「仕訳伝票転記」→「同一日付指定」のチェックがONのときは、そちらが優先			
2	伝票番号	数字	5	「仕訳伝票転記」→「伝票番号」を入力し、売上伝票→入金伝票→仕入伝票→現場日報(仕入行)→支払伝票→現場日報(支払行)の順番で連番をふって出力			
3	仕訳区分	数字	2	[21]			
4	管理仕訳区分	数字	1	[0]			
5	借方税計算モード	数字	1	[0]	経費科目は「設定」→「基本設定」→「入金・支払の経費科目」→「入金伝票」が「内税出力」の場合は[1] 「別記出力」や経費科目以外は[0]	「設定」→「基本設定」→「消費税」→「仕入科目」が「入力区分毎に出力」の場合は伝票や明細毎の税区分より[1][2][0] 「別記出力」の場合は[0]	[0]
6	借方部門コード	文字	6	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」「損益科目のみ出力」の場合は[000] 「全科目出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」の場合は[000] 「損益科目のみ出力」の場合は経費科目のみ各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 経費科目以外は[000] 「全科目出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」の場合は[000] 「全科目出力」「損益科目のみ出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」「損益科目のみ出力」の場合は[000] 「全科目出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]
7	借方部門名	文字	30	空白			
8	借方科目コード	文字	10	得意先マスターの変換コード(主)を出力 未入力の場合は「設定」→「基本設定」→「変換コード初期値設定」→「得意先」を出力	科目マスターの変換コード(主)を出力 未入力の場合は転記処理を中止します。		仕入先マスターの変換コード(主)を出力 未入力の場合は「設定」→「基本設定」→「変換コード初期値設定」→「仕入先」を出力
9	借方科目名	文字	14	空白			
10	借方補助コード	文字	10	得意先マスターの変換コード(補助)を出力 未入力の場合は空白	科目マスターの変換コード(補助)を出力 未入力の場合は空白		仕入先マスターの変換コード(補助)を出力 未入力の場合は空白

11	借方補助名	文字	14	空白			
12	借方税区分コード	文字	2	「設定」→「税区分変換テーブル」→「得意先科目」を出力	経費科目は「設定」→「税区分変換テーブル」→「売上科目」「仕入科目」の[課税]を出力 経費科目以外は「売上科目」の[対象外]を出力	伝票の税区分および行税区分に従い「設定」→「税区分変換テーブル」→「仕入科目」を出力	「設定」→「税区分変換テーブル」→「仕入先科目」を出力
13	借方税区分名	文字	14	空白			
14	借方金額	数字	12	各伝票の明細金額	各伝票の明細金額	「設定」→「基本設定」→「消費税」→「仕入科目」→「転記方法」が「別記出力」の場合は各伝票の税抜明細金額 「入力区分毎に出力」の場合は各伝票の明細金額	各伝票の明細金額
15	借方消費税額	数字	11	[0]	経費科目は「設定」→「基本設定」→「消費税」「入金・支払の経費科目」→「入金伝票」が「内税出力」の場合は消費税を内税計算して求めた結果を出力 「別記出力」や経費科目以外は[0]	「設定」→「基本設定」→「消費税」→「仕入科目」→「転記方法」が「別記出力」の場合は[0] 「入力区分毎に出力」の場合は各伝票の明細消費税金額	[0]
16	貸方税計算モード	数字	1	「設定」→「基本設定」→「消費税」→「売上科目」が「入力区分毎に出力」の場合は伝票や明細毎の税区分より[1][2][0] 「別記出力」の場合は[0]	「設定」→「基本設定」→「消費税」→「売上科目」が「入力区分毎に出力」場合は、同時売上伝票は各伝票や明細毎の税区分により[1][0] 「別記出力」や同時売上以外は[0]	[0]	経費科目は「設定」→「基本設定」→「入金・支払の経費科目」→「支払伝票」「内税出力」の場合は[1] 「別記出力」や経費科目以外は[0]
17	貸方部門コード	文字	6	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」の場合は[000] 「全科目出力」「損益科目のみ出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」「損益科目のみ出力」の場合は[000] 「全科目出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 ただし、同時売上の場合は「損益科目のみ出力」のときも各伝票で入力されている部門の変換コードと出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」「損益科目のみ出力」の場合は[000] 「全科目出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」の場合は[000] 「損益科目のみ出力」の場合は経費科目のみ各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 経費科目以外は[000] 「全科目出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]
18	貸方部門名	文字	30	空白			
19	貸方科目コード	文字	10	科目マスターの変換コード(主)を出力 未入力の場合は転記処理を中止します。	得意先マスターの変換コード(主)を出力 未入力の場合は「設定」→「基本設定」→「変換コード初期値設定」→「得意先」を出力 ただし、同時売上の場合は科目マスターの変換コード(主)を出力 未入力の場合は転記処理を中止します。	仕入先マスターの変換コード(主)を出力 未入力の場合は「設定」→「基本設定」→「変換コード初期値設定」→「仕入先」を出力	科目マスターの変換コード(主)を出力 未入力の場合は転記処理を中止します。
20	貸方科目名	文字	14	空白			

21	貸方補助コード	文字	10	科目マスターの変換コード(補助)を出力 未入力の場合は空白	得意先マスターの変換コード(補助)を出力 未入力の場合は空白 ただし、同時売上の場合は科目マスターの変換コード(補助)を出力 未入力の場合は空白	仕入先マスターの変換コード(補助)を出力 未入力の場合は空白	科目マスターの変換コード(補助)を出力 未入力の場合は空白
22	貸方補助名	文字	14	空白			
23	貸方税区分コード	文字	2	伝票の税区分および行税区分に従い「設定」→「税区分変換テーブル」→「売上科目」を出力	「設定」→「税区分変換テーブル」→「得意先科目」を出力 ただし、同時売上の場合は、伝票の税区分および行税区分に従い「設定」→「税区分変換テーブル」→「売上科目」を出力	「設定」→「税区分変換テーブル」→「仕入先科目」を出力	経費科目は「設定」→「税区分変換テーブル」→「売上科目」「仕入科目」の「課税」を出力 経費科目以外は「仕入科目」の「対象外」を出力
24	貸方税区分名	文字	14	空白			
25	貸方金額	数字	12	「設定」→「基本設定」→「消費税」→「売上科目」→「転記方法」が「別記出力」の場合は各伝票の税抜明細金額 「入力区分毎に出力」の場合は各伝票の明細金額	各伝票の明細金額 ただし、同時売上の場合は、「設定」→「基本設定」→「消費税」→「売上科目」→「転記方法」が「別記出力」の場合は各伝票の税抜明細金額 「入力区分毎に出力」の場合は各伝票の明細金額	各伝票の明細金額	各伝票の明細金額
26	貸方消費税額	数字	11	「設定」→「基本設定」→「消費税」→「売上科目」→「転記方法」が「別記出力」の場合は[0] 「入力区分毎に出力」の場合は各伝票の明細消費税金額	[0] ただし、同時売上の場合は、「設定」→「基本設定」→「消費税」→「売上科目」→「転記方法」が「別記出力」の場合は[0] 「入力区分毎に出力」の場合は各伝票の明細消費税金額	[0]	経費科目は「設定」→「基本設定」→「消費税」「入金・支払の経費科目」→「支払伝票」が「内税出力」の場合は消費税を内税計算して求めた結果を出力 「別記出力」や経費科目以外は[0]
27	摘要文	文字	256	「設定」→「基本設定」→「摘要転記内容」に従い、項目を識別記号→伝票番号→工事コード→工事略称→伝票の商品名・摘要の順で出力			
28	数字1	文字	6	空白			
29	数字2	文字	23	空白			
30	入力区分	数字	2	空白			
31	配賦元税計算	数字	1	空白			
32	配賦元集計方法	数字	1	空白			
33	配賦元開始日付	数字	8	空白			
34	配賦元終了日付	数字	8	空白			
35	配賦元仕訳区分	文字	2	空白			
36	配賦元部門コード	文字	6	空白			
37	配賦元部門名	文字	30	空白			
38	配賦元科目コード	文字	10	空白			
39	配賦元科目名	文字	14	空白			
40	配賦元補助コード	文字	10	空白			
41	配賦元補助名	文字	14	空白			
42	配賦元金額	数字	12	空白			

■通常転記(合計転記)

No	項目名	型	桁	売上	入金	仕入	支払
1	伝票日付	数字	8	「仕訳伝票転記」→「集計期間」最終日を西暦で出力 出力例)20110331 「仕訳伝票転記」→「同一日付指定」のチェックがONのときは、そちらが優先			
2	伝票番号	数字	5	「仕訳伝票転記」→「伝票番号」を入力し、売上伝票→入金伝票→仕入伝票→現場日報(仕入行)→支払伝票→現場日報(支払行)の順番で連番をふって出力			
3	仕訳区分	数字	2	[21]			
4	管理仕訳区分	数字	1	[0]			
5	借方税計算モード	数字	1	[0]	経費科目は「設定」→「基本設定」→「入金・支払の経費科目」→「入金伝票」が「内税出力」の場合は[1]「別記出力」や経費科目以外は[0]	「設定」→「基本設定」→「消費税」→「仕入科目」が「入力区分毎に出力」の場合は伝票や明細毎の税区分より[1][2][0]「別記出力」の場合は[0]	[0]
6	借方部門コード	文字	6	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」「損益科目のみ出力」の場合は[000]「全科目出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」の場合は[000]「損益科目のみ出力」の場合は経費科目のみ各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 経費科目以外は[000]「全科目出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」の場合は[000]「全科目出力」「損益科目のみ出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」「損益科目のみ出力」の場合は[000]「全科目出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]
7	借方部門名	文字	30	空白			
8	借方科目コード	文字	10	得意先マスターの変換コード(主)を出力 未入力の場合は「設定」→「基本設定」→「変換コード初期値設定」→「得意先」を出力	科目マスターの変換コード(主)を出力 未入力の場合は転記処理を中止します。		仕入先マスターの変換コード(主)を出力 未入力の場合は「設定」→「基本設定」→「変換コード初期値設定」→「仕入先」を出力
9	借方科目名	文字	14	空白			
10	借方補助コード	文字	10	得意先マスターの変換コード(補助)を出力 未入力の場合は空白	科目マスターの変換コード(補助)を出力 未入力の場合は空白		仕入先マスターの変換コード(補助)を出力 未入力の場合は空白
11	借方補助名	文字	14	空白			
12	借方税区分コード	文字	2	「設定」→「税区分変換テーブル」→「得意先科目」を出力	経費科目は「設定」→「税区分変換テーブル」→「売上科目」「仕入科目」の[課税]を出力 経費科目以外は「売上科目」の[対象外]を出力	伝票の税区分および行税区分に従い「設定」→「税区分変換テーブル」→「仕入科目」を出力	「設定」→「税区分変換テーブル」→「仕入先科目」を出力
13	借方税区分名	文字	14	空白			
14	借方金額	数字	12	得意先別工事毎部門毎科目毎税区分毎に金額を集計して出力	「設定」→「基本設定」→「消費税」→「仕入科目」→「転記方法」が「別記出力」の場合は仕入先別工事毎部門毎科目毎税区分毎の税抜金額を集計して出力 「入力区分毎に出力」の場合は仕入先別工事毎部門毎科目毎税区分毎に金額を集計して出力		仕入先別工事毎部門毎科目毎税区分毎に金額を集計して出力

15	借方消費税額	数字	11	[0]	経費科目は「設定」→「基本設定」→「消費税」→「入金・支払の経費科目」→「入金伝票」が「内税出力」の場合は消費税を内税計算して求めた結果を集計して出力 「別記出力」や経費科目以外は[0]	「設定」→「基本設定」→「消費税」→「仕入科目」→「転記方法」が「別記出力」の場合は[0] 「入力区分毎に出力」の場合は仕入先別工事毎部門毎科目毎税区分毎に消費税金額を集計して出力	[0]
16	貸方税計算モード	数字	1	「設定」→「基本設定」→「消費税」→「売上科目」が「入力区分毎に出力」の場合は伝票や明細毎の税区分より[1][2][0] 「別記出力」の場合は[0]	「設定」→「基本設定」→「消費税」→「売上科目」が「入力区分毎に出力」の場合は、同時売上伝票は各伝票や明細毎の税区分により[1][0] 「別記出力」や同時売上以外は[0]	[0]	経費科目は「設定」→「基本設定」→「入金・支払の経費科目」→「支払伝票」→「内税出力」の場合は[1] 「別記出力」や経費科目以外は[0]
17	貸方部門コード	文字	6	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」の場合は[000] 「全科目出力」「損益科目のみ出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」「損益科目のみ出力」の場合は[000] 「全科目出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 ただし、同時売上の場合は「損益科目のみ出力」のときも各伝票で入力されている部門の変換コードと出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」「損益科目のみ出力」の場合は[000] 「全科目出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]	「設定」→「基本設定」→「部門コード」が「出力しない」の場合は[000] 「損益科目のみ出力」の場合は経費科目のみ各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 経費科目以外は[000] 「全科目出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力 各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]
18	貸方部門名	文字	30	空白			
19	貸方科目コード	文字	10	科目マスターの変換コード(主)を出力未入力の場合は転記処理を中止します。	得意先マスターの変換コード(主)を出力未入力の場合は「設定」→「基本設定」→「変換コード初期値設定」→「得意先」を出力 ただし、同時売上の場合は科目マスターの変換コード(主)を出力未入力の場合は転記処理を中止します。	仕入先マスターの変換コード(主)を出力未入力の場合は「設定」→「基本設定」→「変換コード初期値設定」→「仕入先」を出力	科目マスターの変換コード(主)を出力未入力の場合は転記処理を中止します。
20	貸方科目名	文字	14	空白			
21	貸方補助コード	文字	10	科目マスターの変換コード(補助)を出力未入力の場合は空白	得意先マスターの変換コード(補助)を出力未入力の場合は空白 ただし、同時売上の場合は科目マスターの変換コード(補助)を出力未入力の場合は空白	仕入先マスターの変換コード(補助)を出力未入力の場合は空白	科目マスターの変換コード(補助)を出力未入力の場合は空白
22	貸方補助名	文字	14	空白			
23	貸方税区分コード	文字	2	伝票の税区分および行税区分に従い「設定」→「税区分変換テーブル」→「売上科目」を出力	「設定」→「税区分変換テーブル」→「得意先科目」を出力 ただし、同時売上の場合は、伝票の税区分および行税区分に従い「設定」→「税区分変換テーブル」→「売上科目」を出力	「設定」→「税区分変換テーブル」→「仕入先科目」を出力	経費科目は「設定」→「税区分変換テーブル」→「売上科目」「仕入科目」の「課税」を出力 経費科目以外は「仕入科目」の「対象外」を出力

24	貸方税区分名	文字	14	空白		
25	貸方金額	数字	12	<p>「設定」→「基本設定」→「消費税」→「売上科目」→「転記方法」が「別記出力」の場合は得意先別工事毎部門毎科目毎税区分毎の税抜金額を集計して出力</p> <p>「入力区分毎に出力」の場合は得意先別工事毎部門毎科目毎税区分毎に金額を集計して出力</p>	<p>得意先別工事毎部門毎科目毎税区分毎に金額を集計して出力ただし、同時売上の場合は、「設定」→「基本設定」→「消費税」→「売上科目」→「転記方法」が「別記出力」の場合は得意先別工事毎部門毎科目毎税区分毎の税抜金額を集計して出力</p> <p>「入力区分毎に出力」の場合は得意先別工事毎部門毎科目毎税区分毎に金額を集計して出力</p>	仕入先別工事毎部門毎科目毎税区分毎に金額を集計して出力
26	貸方消費税額	数字	11	<p>「設定」→「基本設定」→「消費税」→「売上科目」→「転記方法」が「別記出力」の場合は[0]</p> <p>「入力区分毎に出力」の場合は得意先別工事毎部門毎科目毎税区分毎に消費税金額を集計して出力</p>	<p>[0]</p> <p>ただし、同時売上の場合は、「設定」→「基本設定」→「消費税」→「売上科目」→「転記方法」が「別記出力」の場合は[0]</p> <p>「入力区分毎に出力」の場合は得意先別工事毎部門毎科目毎税区分毎に消費税金額を集計して出力</p>	<p>[0]</p> <p>経費科目は「設定」→「基本設定」→「消費税」「入金・支払の経費科目」→「支払伝票」が「内税出力」の場合は消費税を内税計算して求めた結果を集計して出力「別記出力」や経費科目以外は[0]</p>
27	摘要文	文字	256	工事別得意先(仕入先)計の場合は識別記号→工事コード→得意先名(仕入先名)の順で出力		
28	数字1	文字	6	空白		
29	数字2	文字	23	空白		
30	入力区分	数字	2	空白		
31	配賦元税計算	数字	1	空白		
32	配賦元集計方法	数字	1	空白		
33	配賦元開始日付	数字	8	空白		
34	配賦元終了日付	数字	8	空白		
35	配賦元仕訳区分	文字	2	空白		
36	配賦元部門コード	文字	6	空白		
37	配賦元部門名	文字	30	空白		
38	配賦元科目コード	文字	10	空白		
39	配賦元科目名	文字	14	空白		
40	配賦元補助コード	文字	10	空白		
41	配賦元補助名	文字	14	空白		
42	配賦元金額	数字	12	空白		

■完成振替

No	項目名	型	桁	売上	仕入
1	伝票日付	数字	8	完成日(進捗日)を西暦で出力 出力例)20110331	
2	伝票番号	数字	5	完成振替の完成振替設定で指定した伝票番号から、売上伝票→仕入伝票(現場日報[仕入行]も含む)の順番で工事毎に連番をふって出力	
3	仕訳区分	数字	2	[21]	
4	管理仕訳区分	数字	1	[0]	
5	借方税計算モード	数字	1	[0]	
6	借方部門コード	文字	6	[設定]→[基本設定]→[部門コード]が「出力しない」の場合は[000] 「損益科目のみ出力」「全科目出力」の場合は各伝票で入力されている部門の変換コードを出力。各伝票の部門未入力および変換コードの未入力の場合は[000]	
7	借方部門名	文字	30	空白	
8	借方科目コード	文字	10	科目マスターの変換コード(主)を出力	科目マスターの完成変換コード(主)を出力
9	借方科目名	文字	14	空白	
10	借方補助コード	文字	10	科目マスターの変換コード(補助)を出力 未入力の場合は空白	科目マスターの完成変換コード(補助)を出力。 未入力の場合は空白
11	借方補助名	文字	14	空白	
12	借方税区分コード	文字	2	各伝票の税区分および行税区分に従い「設定」→「税区分変換テーブル」→「売上科目」→「通常転記」→「貸方」を出力	伝票の税区分および行税区分に従い「設定」→「税区分変換テーブル」→「仕入科目」→「完成振替」→「借方」を出力
13	借方税区分名	文字	14	空白	
14	借方金額	数字	12	工事毎科目毎部門毎税区分毎に金額を集計して出力	
15	借方消費税額	数字	11	[0]	
16	貸方税計算モード	数字	1	[0]	
17	貸方部門コード	文字	6	借方部門コードと同じ	
18	貸方部門名	文字	30	空白	
19	貸方科目コード	文字	10	科目マスターの完成変換コード(主)を出力	科目マスターの変換コード(主)を出力
20	貸方科目名	文字	14	空白	
21	貸方補助コード	文字	10	科目マスターの完成変換コード(補助)を出力。 未入力の場合は空白	科目マスターの変換コード(補助)を出力 未入力の場合は空白
22	貸方補助名	文字	14	空白	
23	貸方税区分コード	文字	2	伝票の税区分および行税区分に従い「設定」→「税区分変換テーブル」→「売上科目」→「完成振替」→「貸方」を出力	各伝票の税区分および行税区分に従い「設定」→「税区分変換テーブル」→「仕入科目」→「通常転記」→「借方」を出力
24	貸方税区分名	文字	14	空白	
25	貸方金額	数字	12	借方金額と同じ	
26	貸方消費税額	数字	11	借方消費税額と同じ	
27	摘要文	文字	256	[設定]→[基本設定]→[摘要転記内容]に従い、項目を識別記号→工事コード→工事略称→完成振替設定の摘要に入力した内容の順で出力	
28	数字1	文字	6	空白	
29	数字2	文字	23	空白	
30	入力区分	数字	2	空白	
31	配賦元税計算	数字	1	空白	
32	配賦元集計方法	数字	1	空白	
33	配賦元開始日付	数字	8	空白	
34	配賦元終了日付	数字	8	空白	
35	配賦元仕訳区分	文字	2	空白	
36	配賦元部門コード	文字	6	空白	
37	配賦元部門名	文字	30	空白	
38	配賦元科目コード	文字	10	空白	
39	配賦元科目名	文字	14	空白	
40	配賦元補助コード	文字	10	空白	
41	配賦元補助名	文字	14	空白	
42	配賦元金額	数字	12	空白	

●PCA給与Xへ転記●

【概要】

PCA給与Xに正式対応しました。

【操作】

- ①メインメニューから「仕訳伝票転記」→「給与計算へ転記」を選びます。
- ②条件画面が表示されますので、下記のように条件を指定します。

給与計算ソフト：PCA給与Xを選択します。
 出力形式：タイムレコーダー形式(固定)
 集計期間：(必須)書出す出面書の範囲指定を行います。
 要勤務日数：給与計算に必要な「要勤務日数」を入力します。
 (次回変更時まで保存します)
 ファイル名：PCA給与に読みをするファイルの保存場所・
 ファイル名を指定します。

- ③[実行] ボタンをクリックして書出処理を完了させます。

【PCA給与Xでの読み方法】

[随時]→「受入フォーマット：分散データ」→「受入データの選択：給与勤怠データ」より読みを行います。

- ①「給与勤怠データ」の「ファイルパス」を指定します
- ②工事台帳で指定したファイル名を設定し、[OK] ボタンをクリックします。
- ③条件画面を下記のように指定します。

汎用データに項目名が存在する」のチェックをオフにします。
 受入支給回：給与計算に読みをする月を選択します。

- ④[実行] ボタンをクリックします。

※詳しい操作方法につきましては、PCA給与のマニュアルをご参照下さい。

PCA給与Xでの出力項目

No	受入項目	桁数	型	データの出力内容
1	社員コード	13	文字	「従業員コード」
2	要勤務日数	5	数字	条件指定画面より
3	要勤務時間	5	数字	勤怠項目設定による。未設定の場合、「0」を出力
4	出勤日数	5	数字	〃
5	出勤時間	6	数字	〃
6	事故欠勤日数	5	数字	〃
7	病気欠勤日数	5	数字	〃
8	代休特休日数	5	数字	〃
9	休日出勤日数	5	数字	〃
10	有休消化日数	7	数字	〃
11	有休残日数	8	数字	〃
12	残業平日普通	6	数字	〃
13	残業平日深夜	6	数字	〃
14	残業休日普通	6	数字	〃
15	残業休日深夜	6	数字	〃
16	残業法定普通	6	数字	〃
17	残業法定深夜	6	数字	〃
18	遅刻早退回数	5	数字	〃
19	遅刻早退時間	6	数字	〃
20	有休日数消化	7	数字	〃
21	有休時間消化	3	数字	〃
22	有休日数残	8	数字	〃
23	有休時間残	3	数字	〃

24	有休可能時間	4	数字	〃
25	残業平日普通45下	6	数字	〃
26	残業平日普通45超	6	数字	〃
27	残業平日普通60超	6	数字	〃
28	残業平日普通代休	6	数字	〃
29	残業平日深夜45下	6	数字	〃
30	残業平日深夜45超	6	数字	〃
31	残業平日深夜60超	6	数字	〃
32	残業平日深夜代休	6	数字	〃
33	残業休日普通45下	6	数字	〃
34	残業休日普通45超	6	数字	〃
35	残業休日普通60超	6	数字	〃
36	残業休日普通代休	6	数字	〃
37	残業休日深夜45下	6	数字	〃
38	残業休日深夜45超	6	数字	〃
39	残業休日深夜60超	6	数字	〃
40	残業休日深夜代休	6	数字	〃
41~50	勤怠自由時間	6	数字	「0」を固定出力
51~60	勤怠自由数値	5	数字	「0」を固定出力
61~90	回数	10	数字	「0」を固定出力